



# クリスマス会



# 里だより

No.409

令和8年2月1日

一発行

菊池郡大津町平川400番地

社会福祉法人 清和会

つくしの里

TEL 096-293-1550

FAX 096-293-1579



二月号もくじ

(ページ)

施設長より………  
サビ管より………  
主任より………  
2 1

職員より・事務局より………  
3

行事報告………  
4

行事予定………  
5

ありがとうございました・  
編集後記………  
7



## 施設長より

### 次年度に向けて

政治や政策について批判や揶揄するつもりはありませんが、年明け早々、米国のベネズエラ急襲、中国の輸出規制強化、イラン国内のデモ、グリーンランド領有権交渉など立て続けに国際的な問題が起こり、世界情勢が混沌としてきました。

国内に目を向けると、新年度予算案成立前の衆議院解散総選挙。私たちの生活にどのような影響が出てくるのでしょうか。福祉が冷え切るということは、その前に社会経済が冷え切るということに他なりません。福祉と社会は相互依存関係にあり、これらが今後、政治経済にどのような影響となるのか目が離せない状況です。

さて、事業所は次年度の事業計画案の作成に取り掛かっています。法人理念、事業方針、スローガンを大切にしながら、事業の骨子に肉付けをしていきます。現在は、今年度の反省を洗い出し、改善策を盛り込むよう検討中です。毎年のことですが、やはり何かしら事業を行う際には、予算はつきものです。また、人と向き合う仕事ですので、人材も欠かせません。ただ、予算も人材も限りがあります。AIの導入も見直されて、福祉業界でもICT化の波が押し寄せていました。業務省力化のためには欠かせないツールになりつつあるのではないでしょうか。それを使いこなせるかどうかは『人』に委ねられます。例えば、レクリエーションのアイデアをAIに導き出させます。利用者



さんの年齢・障害特性・人数・効果・何種類か提案するように命令文（プロンプト）を出すと、あつという間に提案してくれます。かなりの業務省力化です。しかし、その提案を実行するのは『人』。提案された準備物を揃えなければなりませんし、道具だけ渡してもスタートしません。楽しんでレクリエーションをしてもらうには、『人』の技量が伴います。もしも、導入するとなつた場合は、『人』の育成に力が必要でしょう。今でも、とても大切なことかもしれません。

事業計画も同じく、形はできていても運用するのは『人』。充実した計画と、充実した運用に力を入れていきたいと思います。

施設長 松永一博



## サビ管より

### 大切に残しているもの・残したい想い



③ 利用者さんには指示ではなく、一緒に行動するという点から「話しかける」「話を聞く」「同意を得る」そして行動する姿勢で対応の事。（常に感謝の心をもち、謙虚に徳をつんでください。）

漢字が書けずとも辞書を引かずに入力変換、挨拶文をはじめビジネス文書もパソコンで例文検索、新聞もデジタル版をいつでもどこでもスマホで読めるという時代。写真も撮るだけ撮ってプリントせずにクラウド保存、連写した写真を加工できる世の中。メモを取つたり残したり、調べたことを書き写したり、紙で残すことも少なくなりつつあります。増えた書類や書き残しているものを年末に整理しました。私は、年末と年度末の二回、取捨選択する中で、大切に紙で残しているものがあります。

一つは、平成二十五年三月十九日、支援員の皆様方へ「業務

に対し、責任と自覚をもつてあたりましょう」と題し、次年度の組織体制にかかる職員会議で、初代 河野施設長が示された「業務についての再確認と周知」の文章です。一から四まであります。その中の二つを、この時期、自身に問い合わせ言い聞かせる意味で、ここに残します。

「決められた職責を確実に果たすこと」

仕事である（賃金をとっている）事を自覚して、プロとしての責任を果たし自己を高める。

日常の勤務態度について

- ① 笑顔で、大きく挨拶を。（感謝と思いやりをこめて）
- ② 細かい所に常に配慮する気づかいを。（電気、水道、マッ

ト、施錠、くつ、土など）

もう一つは、令和二年五月十四日 当時の施設長、小川理事長が示された文章。

「費用対効果が出るよう」

「時期をあやまることなく」

「それぞれの責任と業務分担、個々の業務の洗い出しによる見直しと引継ぎ等、事前の準備を早めに進める」とあります。

どちらにも、自身の責任の下、チームの意識改革と情報共有の重要性を記しています。時代が変わっても、手段や方法が違つても、目的は変わらずにあり、目的に向かつて具体的な目標を掲げるのみだと思います。次年度について単年度的な物の見方ではなく、法人全体として中長期的な動きについて、人・物的・環境的、そして経営的な視点で視野を広く持ち考える力をつけたいと思います。

最後に、もう一文、初代施設長の

「自分の道は自分で切り拓く以上、その術はありません。現実、誰も助けてはくれません。一步一歩確実に、着実に、自覚を持って業務を遂行することが最終的にあなた自身を成長させると共に、守ることだと確信しています」という言葉と

「めくばり・きくばり・おもいやり」「ありがとう」を、心にとめて、利用者さんに寄り添う姿勢でいたいと思います。

支援係長 長渕 さくら

# 主任より

## 啐啄同時（そつたくどうじ）



『すべての出会いは必然で、人生を成長させるために必要なタイミングで訪れる。会うべき時に会うべき人と出会う。自分の人生を進めるためのきっかけとして起きている出会い。』

アドラー心理学では、人の行動を「原因」ではなく「目的」で説明します。過去の出来事が出会いを作ったのではなく、その人の無意識の目的がその人を選び取ったという考え方。例えば、あなたが成長したいと思つていてる時、その成長を促してくれる人。出会うのは、今のその人に必要だったから。出会いは、その人を成長させる課題でもある。人生は「仕事」「交友」「愛」この三つの課題で成り立つていて。厳しい上司と出会つたのは、自分の意見を伝える練習のため。優しい友人と出会つたのは、人を信じる練習のため。恋人と出会つたのは、愛し愛される練習のため。

つまり、出会いはすべて今のあなたに必要な人間関係の練習課題。そして、会うべきタイミングは、その人の準備が整った時に訪れる。変わる覚悟ができた過去のパターンから抜け出す準備ができるたその瞬間に、出会いは現れる。あなたの成長と目的に沿つた必然。もし今強く印象に残る人がいるならば、「なぜ今、この人と出会つたのか」そう考えてみる。その問い合わせたの人生を次のステージへ進めてくれる。

に身を置く人がたくさんいると思います。職場の人事で納得いかず、憂鬱だと思う状況がこれからあるかもしれません。

春という季節は大好きなのですが、事業計画書を開く時の緊張感、主任としての役割や責任を果たせるのかという大きなプレッシャー、うまくやっていけるだろうかという不安感があり、モヤモヤする季節もあります。そのため私は、大きく深呼吸する回数や、現実逃避して愛犬の散歩の回数も増えます。現実逃避は自分を整えるために必要なことなので、皆さん大いに逃避して、必ず戻ってきてください。逃避したまま旅に出ないようしましょうね（笑）。

その場所に置かれたことには意味があります。進退を考える時、自分がいなくても仕事は成り立つ、誰かが担えると思うかもしれません。その人が持つている雰囲気・人間性・関係性・考え方や視点というのは、その人にしか出せない。だから代わられる人はいない、その人がいることに意味があるのだと思っています。あなたがいるから安心して過ごしている人がいる。旅立つ仲間の未来を応援し、迎え入れる仲間があたたかく過ごせる環境にしたい。そう思います。最も簡単にできることは、心のこもつた挨拶だと日々感じています。実家に帰り、じやあまたねと家を出る時に、必ず母親が「ありがとうね。気を付けてね」と玄関まで見送ってくれます。それだけで、様々な疲れが緩和されます。そんな風に心が温まる挨拶が日々つくしの里で飛び交えば良いな、そんな環境にしたいな、と思っています。

春は別れと出会いの季節です。転職や引っ越し…新たな環境

主任支援員 中尾麻里子

## 職員より

私がつくしの里に入職し、今年の7月で丸10年を迎えます。つくしの里では、班外出や担当利用者さんとの外出・施設行事など、様々なイベントで外に出る機会があります。その際、利用者さんがその場所に行く事に対して気を付けておかなければいけないポイントがあるかどうかを、予習をしておくことが必要不可欠だと思います。先日、私が所属する班での神社の参拝に出かけましたが、計画を立てたときと、自分が思っていたイメージと実際の神社内の通路などの配置が異なっており、現地を下見していなければ、当日利用者さんにご不便をおかけするところでした。

最近はプライベートで外出などをする際にも、「この場所だったら○班の利用者さんが楽しめるのかな！？」など、ついつい仕事目線で考える事もあります。初心を忘れずに下準備をしっかりと行い、利用者さんが楽しめる外出などを今後も提案していきたいと思います。

(支援員 井)

私には5歳の娘がいます。5歳になり自分で出来る事はたくさん増えてきました。例えばパジャマのボタン留めだったり、お風呂の際の身体を洗ったり…。ですが、ついつい手を出してしまい「ママもう自分でできるよ」と言われる事もしばしば。成長したなと感動する一方、できる事までしまって自分でする機会を奪ってしまっているな感じています。それは利用者支援でも言える事で、必要以上に手助けしてしまっているなと思う事があります。立ちあがる際に必要以上に手伝ってしまったり、自分でズボンを上げられる所を職員であげたり…。自己満足の支援にならないよう気を付けながら、利用者さんができる事を減らさない、認めていける支援をしていきます。

(支援員 村上マ)

## 事務局より

最近しみじみと感じることは、1年間があっという間に過ぎることです。仕事においても、この業務は何月何日までに終わらせる目標を立てて日々取り組んでいますが、いつの間にか目標締切り日ギリギリになっていたり、私生活では、つい先日、娘が小学校入学した感覚でしたが、気づけば小学校4年生で4月には5年生と時間の速さに驚くばかりです。娘は10歳となり、考えた方や行動が段々大人っぽくなっていました。内弁慶なので、家では口達者で毎日のように私と口喧嘩をしますが、外では恥ずかしがり屋さんで、その場に慣れるまでは口数が少ないおとなしい子になってしまいます。そんな娘ですが、4年生の学校内クラブ活動で手話クラブに入りました。理由を聞いてみると「耳が不自由な人の力になりたい」とのことでした。知らない間に誰かのためにという思いやりの気持ちを持てる子になっていて、不覚にも感動てしまいました。これから心身ともに成長していく反抗期に突入していくと思いますが、思いやりの気持ちは決して忘れないよう過ごしてほしいです。

思いやりの気持ちは福祉業界で働く上でなくてはならないことだと思います。年々介護職の人材不足は大きな課題です。少しでも誰かのために…と想う気持ちがあるのであれば、福祉業界も選択の1つに入ることを願うばかりです。

(事務員 樋口)

## 行事報告

※ 12/21（日）～1/20（火）の実施分について報告いたします

### ★クリスマス会【12月23日（火）つくしの里】

今回はメインイベントとして、職員クイズ大会を行いました。職員、利用者さんはクリスマスにちなんだ小物や衣装を身に着け、さらにはくいだおれ太郎のユニークな仮装などで利用者さんを笑いに誘いました。「プレゼントをくれる人は誰！？」のクイズでは、サンタクロースではなく、織田信長の写真を選ばれるなど、珍解答が続出で盛り上がりしました。また、利用者さんがハンドベルでクリスマスソングを演奏し、とても心に響きました。昼食は1年を締めくくる行事にふさわしく豪華で、チキンやクリスマスケーキ、お菓子といつもよりボリューム満点で美味しくいただきました。

午後からはサンタクロースからプレゼントを受け取り、暖かいマフラーや帽子のプレゼントに利用者さんは大変喜ばれ、早速身に着けていました。クリスマス一色の1日になりました。

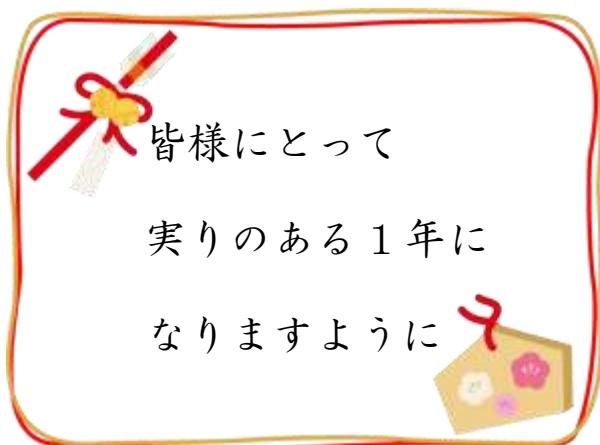
（支援員 尾崎か）



## ★参拝【1月 5日（月）日吉神社】

5日のお昼頃に係長以上の職員で参拝に行ってきました。毎年恒例の日吉神社へのお参りですが、階段を上がって境内に足を踏み入れると身が引き締まる想いになります。それと同時に、もう1年経ったんだなという月日の流れの速さも実感します。

つくしの里の1年間を振り返ると、利用者さんの事故・怪我・疾病の悪化・感染症など、いろいろなことがありました。毎年何事もなく終わることはできませんが、神頼みだけではなく、職員一同、より一層気を引き締めて利用者支援に精進していきたいと思います。また、行事関係ではコロナ禍前の賑わいが戻ってきたように感じます。今年もたくさんの楽しみとチャレンジで、笑顔溢れる毎日にしたいです。（支援係長 井上）



## 施設PR委員会 今月の1枚！



何を書いているのかな?  
正解は…  
2班の今年の抱負でした！  
今年も個性が爆発!!



## 行事予定

☆生活介護班⑤班外出（つくしの里・ゆめタウン光の森）

期 日：2月 19日（木）

内 容：1月の予定でしたが、2月に慰労会として変更になりました。

今年度の5班の頑張りに乾杯します♪



ありがとうございました

今月の掲載分は、

令和七年十二月二十一日（木）

令和八年一月二十日です

### 【寄付・寄贈】

・石塚正司 様

・岩根治美 様

・上入佐智美 様

・下村一恵 様

・田上修二 様

・渕本圭輔 様

・古川信子 様

・三上貴宏 様

・小竹組 様

・日本総合教育専門学校 様

### 【ボランティア】

・村裡和洋 様

・木本ふじ子 様

・カモメ 様

・トキロロ 様



## 編集後記

異例の冬の衆議院総選挙で、日本中が  
慌ただしい空気になつてているように感じ  
ます。積雪の影響で、選挙の投票率が心  
配されています。選挙に関心のある利用  
者さんもいらっしゃいます。無理のない  
範囲で投票に行けたらと思います。



※お詫びとおことわり

里だより担当では、毎月十分注意し  
て、記事の記載、確認をしております  
が、誤字脱字等がございましたら何卒ご  
容赦していただきたく存じます。